

ミカンコミバエとは

ミカンコミバエは、体長7mm位の小型のハエの一種で、カンキツ類等の生果実の大害虫として知られている。

【世界における発生地域】

中国，東南アジア，ハワイ等

【主な寄主植物】

ポンカン，タンカン，スモモ，マンゴー，パッションフルーツ等の
果実類全般

トマト，ピーマン等の果菜類全般

【被害状況】

幼虫が果実に寄生すると腐敗・落下し，ひどい場合には収穫皆無となる。

【我が国の状況】

- 1 大正8年に沖縄本島で最初に発見。
- 2 南西諸島及び小笠原諸島にのみ発生していたことから，本土への侵入・まん延を防止するため，植物防疫法に基づき寄主植物の国内移動を規制する一方，昭和43年から根絶事業を開始し，昭和61年に根絶を達成。
- 3 植物防疫法により，海外の既発生地域からの寄主果実等の輸入を禁止。
- 4 本県では，平成27年に奄美大島等で再発生したが，防除の結果，平成28年に根絶。
また，平成30年6月から7月にかけて沖永良部島，徳之島，奄美大島，悪石島で誘殺を確認したが，その後の誘殺は確認されず，初動対応を平成30年11月までに終了。

【防除方法】

雄除去法（誘引剤及び殺虫剤を染み込ませたテックス板を設置することによる防除方法）



成虫



テックス板